

新聞に親しみ、文章を読み取る力を高めるNIE

～新聞記事の視写を通して～

明石市立二見西小学校

校長 長井 佐智夫

主幹教諭 若生 佳久

1. はじめに

十数年ほど前にある校長から「ぼくは、文部省（その当時）の言っている『生きる力』というのは、『新聞が読める力』やと思うんや」という話を聞いた。その時、「なるほど。新聞には、様々な記事や情報が載っている。それらの記事や情報を『読み、考え、自分の生活に生かす』また、『社会情勢を知り、それに対処する』など新聞は、生活に欠かせない必要なものだなあ」と思った。

しかし、実際問題として新聞の購読数はどんどん減少している。私がNIEを始めた二十数年前では、学級で新聞を購読していない家庭は1割強（40人学級だったため、5人ほどだったと記憶している）であった。その当時さえ、新聞購読をしていない家庭が結構多いものだと思った。今年度、NIE実践指定校となり、新聞購読の家庭数を調査した。その結果、3割弱（30人中8人）もの家庭で新聞を購読していない事実が判明し、驚いてしまった。それまでにも習字や図工などで、「家から新聞を持って来るよう」と児童に伝えると「家は、新聞をとっていない」という児童が数人いたため、「だんだんと新聞購読数が減ってきてているなあ」と感じていたが、こんなに増えているとは思っていなかった。

そこで、2学期から新聞を購読し、5年児童に提示するにあたり、まず新聞に親しませることから始めることとした。4といつても、児童は今までにも新聞についての学習をしてきている。前年の第4学年では、国語科で「新聞を作ろう」（光村図書）の学習を行っている。ここでは、新聞の特徴を知り、新聞づくりを学習活動してきた。そして、学校行事として1泊2日の野外活動を「新聞」という形で表す学習もしている。また、第5学年では国語科で4月に「新聞を読もう」（光村図書）で、新聞の面や記事の構成を確認しながら、発信者の違い（新聞社の違い）によって、内容や表現が違うことを知る学習をしている。そして、そこで、見出しや写真の工夫によって、より伝えたい内容を的確に表現できる効果があることも学んでいる。その後、6月には4泊5日の自然学校を今までの学習をもとに新聞づくりで学習してきた。このような経過を経て、2学期以降の実践を次に述べるように計画した。

2. 主な実践

4月・5月…国語科「新聞を読もう」（光村図書）での学習

先にも述べたが、ここでは、新聞の面や記事の構成の確認。発信者の違いによる記事内容や表現の違い。見出しや写真の工夫による効果。新聞記事が、逆三角形の形の重要度の高い内容を、見出しやリード文など最初に持ってきていることなどを学習した。

6月・7月…宿泊を伴う行事、自然学校の活動を新聞にまとめる

自然学校は、6月下旬から始まるため、自然学校中は、活動内容や自然学校での学習内容、自分の思いなどをしおりにメモをとらせ、学校へ帰ってからの取材メモとする。

9月…自由に新聞を読み、親しむ期間

新聞をだれでも読めるように、廊下にある談話コーナー横に棚を置き、その上に各社の新聞を配置する。

本校の教室などの配置は創立20周年と比較的新しく、他校と少し変わっており、各階に談話コーナーという児童が座って話ができる場所がある。そのため、このような場所を利用し、新聞を読むスペースとした。

この月は、ただ置いておくだけ。児童が興味を持ち、新聞を手に取れる条件整備を中心と考えた。

また、毎朝の新聞を取りにいく当番を決め、毎朝その日の朝刊と前日の夕刊を取りに行かせた。(この当番だけは、実践担当者の本学級の児童とした)

10月…輪番制でその日の新聞から自分の気になった記事を一つ選び、みんなの前で発表する期間

9月に新聞に親しみ、新聞のどこにどんな記事が書いてあるのかを経験しているため、この月は新聞に対し積極的(といつても教師からの指示であるが)に関わらせることを中心とした。

「しなければならない」という段階を経て、「新聞を見る、読むのが当たり前」という雰囲気や気持ちを持たせることを目的とした。この活動は、購読期間が終了する12月の終わりまで続けた。

11月…新聞を通して、世の中の出来事に关心を持たせたい期間

新聞に対して、数多く接することが増えてきたため、次の段階として世の中でどのような出来事が起こっているのかに気づかせたいと考えた。

1週間分の各紙の1面から主な出来事の記事を選び、虫食いプリントを作成した。児童にとっては非常に難しい問題であるため、ヒントとして各紙の中から分かりやすい写真やグラフなど(キャプションも載せ)をプリントの右側に貼りつけ、その資料を見つけることで簡単に答えが分かるように配慮した。

12月…新聞記事の視写から、文章を読み取る力を高める期間

新聞に対し、特に抵抗なく記事に接するようになり、その次の段階として本来のテーマである「文章を読み取る力を高める」ために視写を取り入れた。

国語科での読解力を高めるための手立てとして、「音読」と「視写」は非常に有効である。何度も「音読」することで文章内容を理解する。また、登場人物の気持ちやその場の状況を表現するために「表現(音読)読み」で、どのように読めば(音読すれば)よいかを考える。それと同じぐらい「視写」も有効である。最初は、一文字一文字を見て書き写していくが、次の段階で単語ごとに覚え書き写すようになる。その次の段階として、文節ごとに覚え書き写す。その次は、一文ごとに。というように、文章を読むための視野が広がることに併せ、文章の中味を理解しなければ長い文章を覚えて書き写すことができない。そういう意味で、「視写」は文章の読み取る力を高めるのに有効である。

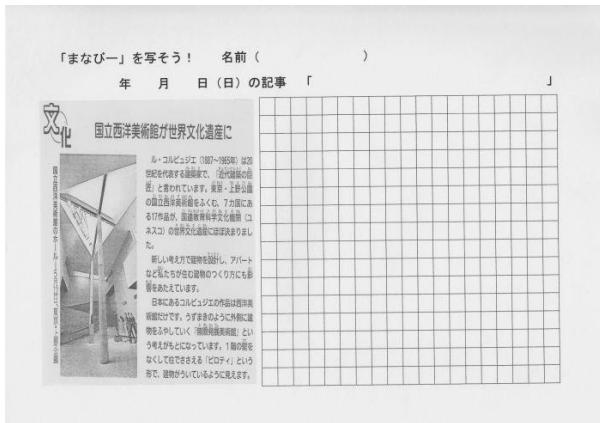
1月～3月…新聞記事の視写とともに、記事の内容を読み取るプリントをし、文章を読み取る力を高める期間

12月の視写プリントからさらにもう一步すすめ、記事についての簡単な内容を問題として作成し、児童に解かせていった。その際、難しい言葉も国語辞典で調べさせる活動を取り入れた。文の前後から言葉の意味を推測することも大切であるが、しっかりと言葉の

意味を覚えることも必要である。国語辞典は、国語科を中心（理科や社会科でも使う時がある）に使わせている。国語辞典を使うことに慣れ、本や（これから数多く接するであろう）新聞記事を読むたびにすぐに国語辞典を使ってくれるだろうと言う期待も込めている。

3. 文章を読み取る力を高める実践

1 2月以降の実践内容を述べる。（記事は「神戸新聞」日曜版「まなびー」を使用）
記事の場所や読み取りのプリントについては、全く初めてであり作成するのに苦労した。
手探りの状態から視写を始めた。まず、一枚のプリントにまとめる。そのためには、記事をプリントのどこに配置するのか。



(左に記事を置いたプリント)



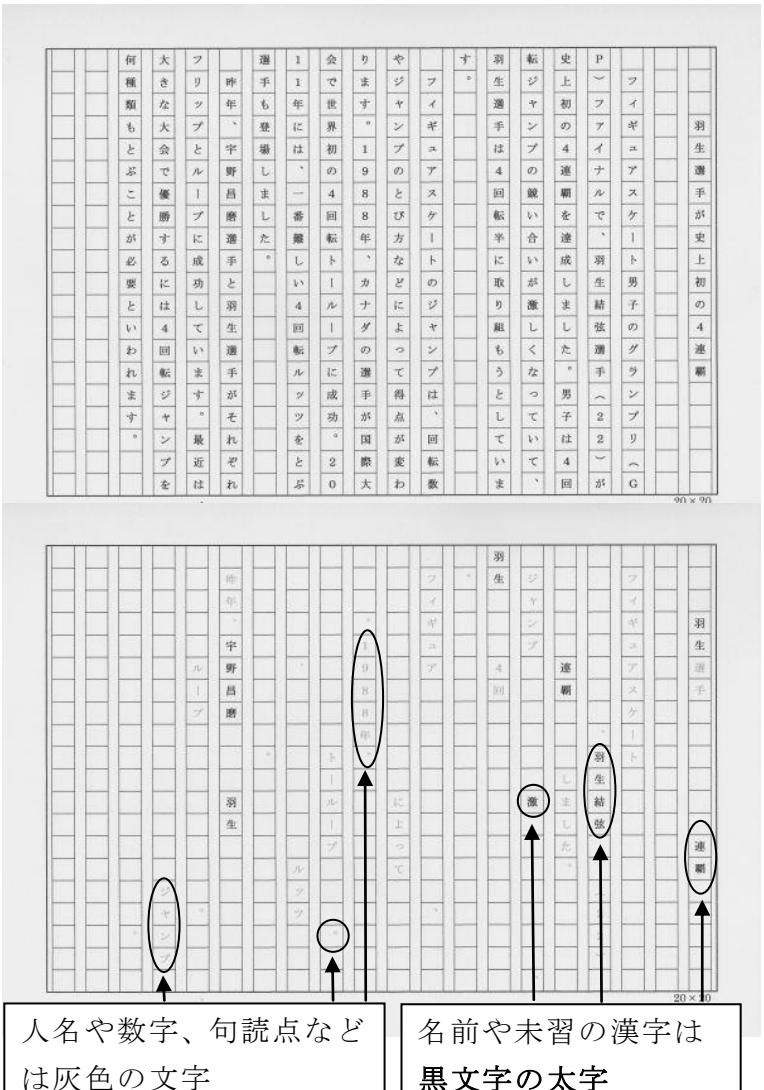
(上に記事を置いたプリント)

児童にどちらの方が写しやすかったのかを聞くと、記事が上方の方が見やすいとのこと。鉛筆を持つ手が、左利きの児童もいるため、上方方が見やすいというのもあった。

ここで、児童一人一人の視写プリントを見ていくと、記事の中の一行の字数と行数をそろえて表を作成したが、視写の字マス目からずれているプリントがあった。原因は、数字などの表記が半角であったり、見間違ったりして写すものである。

そこで、記事内容をしっかりとマス目どおりに視写させるため、次の点に留意し視写プリントを作成し直した。

- (1)記事をすべてB5の原稿用紙（横長）に入力し、上に記事を入力したプリント。下には視写をするプリント。その2枚をつけ、B4（縦長）にした。（次ページ資料参照）
- (2)最初の文字を「濃い目の灰色文字」にし、その色の文字はなぞるように指示した。これをしてすることで、文字を写しまちがっても次の行を書き始めるとすぐに間違いに気づくことができる。また、数字やアルファベットなども灰色文字にすることで、マス目を間違わずに写すことができた。
- (3)行の途中にも「濃い目の灰色文字」や「句読点（「、」や「。」）」を入れ、写し間違いがあった場合、すぐに気づけるようにした。（句読点も濃い目の灰色文字）
- (4)第5学年であるため、記事の中には未習の漢字もあるため、それらの漢字（言葉）は、「黒文字の太字」とし、漢字の書き順を間違わないようにそれらは書かないように指示した。（児童は、記事の中にこの黒文字の太字がたくさんあると書かなくてもよいので喜んでいた。）



左の資料のように二枚のプリントを貼り付け、B4の大きさに印刷し、児童に視写させた。

読み取りプリントについては、紙幅の関係でここには載せることができないが、以下のような内容をA4（横長）で作成した。

(1)意味調べ

「実現」「運営」「批判」など

(2)読み取り

○何年にできたか。

○だれがしたか。

○どこの国か。など

左のB4（縦長）の視写プリントとA4（横長）の読み取りプリントを毎日宿題として出していった。

最初は国語の時間にプリントをさせ、質問などを受け付けた。

慣れてくると毎日の宿題として出した。

児童は嫌がっていたが、徐々に慣れたようで、10分で視写ができるようになってきた。

視写をする時間は、10分と決めており、記事はすべて書かなくてもよいと言っていたが、12～14分かけて多くの児童は視写プリントを提出した。（中には10分の途中までの児童もいたが）

4. 成果と課題

文章の読み取りの向上を目指し、視写プリントと簡単な読み取りプリントを実施した。国語の読み取りテストのクラス平均点は次のとおりである。

1学期…83.8点	2学期…91.9点	3学期…91.6点
-----------	-----------	-----------

「新聞記事を読み」「感想を書き」「資料を読み取り」「視写をし」「簡単な読み取りをし」とさまざまな活動を2学期以降に行ってきました結果が上記の結果である。

2学期末の時点で児童の読み取る力が向上してきているとは感じていたが、このように数字として表れると正直とても驚いている。これらの結果から文章の読み取る力を高めるには新聞活用が非常に有効であるといえる。

課題として、対象が小学生（高学年）であるため小学生にとってちょうどよい長さと内容の記事を探すということがあげられる。これに関しては、各紙から出ている小学生版の新聞を来年度は使用し、プリントの題材にしたいと考える。